

## 小学校第5学年 外国語活動指導案

日 時 平成23年10月13日(木) 2校時

指導者 教育センター所員(JTE)松尾 美値余

### 1 単元名 外来語を知ろう～言葉でつながる世界～

### 2 単元設定の理由

- 本単元は、英語ノート1 Lesson 6「外来語を知ろう」の活動を基に、その内容を補充・発展させたものである。児童が日常生活の中で何気なく使っている外来語を取り上げながら、そのもとになる英語表現を関連させて活動を構成している。

単元においては、外来語とのもとになる言葉の音の違いを、楽しみながら聞き分けたり、自分でも意識して発音してみたりすることが自然とできるようなゲームなどの活動を多く取り入れていく。様々な形態のコミュニケーション活動を通して、聞いたり伝えたりする体験をする中で、児童は、相手と関わる楽しさや、関わることができたことに対する自信・満足感を感じることができよう。

また、本単元では、英語がもとになっている外来語だけでなく、日本とつながりの深い国の言葉がもとになっている外来語や、外国でそのまま外来語として使われている日本語についても触れることができる活動を取り入れている。このような活動を通して、児童は、身の回りの言葉により意識を向け、言葉についての新しい発見をしたり、日本語という自文化について改めて考えたりすることができるであろう。

- 本学級の児童は、今年度より週1時間の外国語活動を経験してきている。その中で、様々な題材や英語表現に触れ、英語を聞く体験や、言語・非言語を用いて人と関わる体験を、徐々に楽しむことができるようになってきた。本単元でも、人との関わりに対する意欲を高めていくために、相手の言葉や身振りに注意を向けて聞こうとする児童の姿、また、自分の言いたいことを自分にできる方法で何とか伝えようとする児童の姿が得られるような活動を設定していきたい。

また、言葉を通して自文化・異文化を見るということは、児童にとってこれまであまり経験のないことであると思われる。本単元の活動によって、自分が使っている身近な言葉が、たくさんの国の人が使っている言葉とつながっていることを感じさせたい。

- 本単元は、児童の実態に合った活動、単元のねらいにより近付くことができる活動を展開するために、取り上げる内容の一部や単元の終末、使用する言語材料などについて、英語ノートの単元構成にアレンジを加えている。

指導に当たっては、外来語を題材として扱いながら、活動を通してコミュニケーションの楽しさを感じさせたり、言葉への気付きをもたせたりすることができるように、次のような手立てを取る。

まず、活動の性質を考えた上で、各活動を単元にバランスよく位置付けていくことである。児童の実態を基に、単元全体を通して主となるのは、JTEと児童という形態で、聞いて反応する活動や自然と表現を繰り返すことができる活動とする。児童に、「英語だけ聞いていて何となく分かった」「楽しんで言えた」という気持ちをより多く感じさせるために、聞かせる内容の選択はもちろん、言語材料の精選にも十分配慮したい。また、取り上げる活動は、英語ノートでも頻繁に使われているものを中心とするが、児童がより楽しさを感じることができるような新たな工夫を加えたり、ペアで活動させて協力場面を生んだりしていく。単元の最後には、児童が互いに関わり、自分の言いたいことを伝える場面を入れる。この場合も、正確な英語を求めることをねらいとするのではなく、前時までに経験したクイズの形式を生かすなど、非言語も含めて自分にできる方法で関わりをもたせるようにし、児童が自ら関わりを求め、それを楽しもうとする姿を引き出すことができるような場を設定する。

次に、言語や文化に気付くような内容を単元全体を通して意図的に盛り込んでいくことである。1時目には、国語の学習との関連から、英語がもとになっている身の回りの外来語に目を向けさせ、音声の違いに自然と気付くような活動を設定する。2時目には、英語以外の言葉を使う国から入ってきた外来語をゲーム的な要素のある活動に取り入れ、異文化が自文化に深く関わっていることに関心をもたせる。3時目には、様々な国で、外来語としてそのまま用いられている日本語を知ることができるような活動を取り入れ、自文化も異文化に影響を与えていることに気付かせるようにする。そして、4時目には、自分で見つけた外来語をクイズ形式で友達に紹介するという活動を行い、外来語マップを完成させていく。このような活動を通して、新たな視点で言葉に目を向けさせたい。

本単元では、全ての時間をJTE単独で行う。外来語と英語の発音の違いに気付かせる場面など、発音の正確さが求められる部分については、音声教材を適切に用いるなどの手立てにより補っていく。

### 3 単元のねらい

- 外来語とそのもとになる語、また、日本語について知ることで、言葉による自文化と異文化のつながりに気付く。 【言語や文化に関する気付き】
- 聞いたり伝えたりするコミュニケーション活動に興味をもち、友達やJTEと積極的に関わろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 外来語とそのもとになる語との音の違いに気付き、それを意識して聞いたり、発音したりする。 【外国語への慣れ親しみ】

### 4 単元計画（全4時間）

時	活動名及びねらい、言語材料	主な活動	指導上の留意点
1	<b>外来語と英語</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来語とそのもとになる語とでは、音が違うことに気付き、その音を意識して聞いたり、口にしたりしようとする。 television, banana, gorilla, tomato, kangaroo, guitar, camera, cake, koala, cabbage, piano, glove,...</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの外来語と、そのもとになる語の発音を聞いて、音の違いに気付く。</li> <li>・ Let's Listen 指さしゲームをする。</li> <li>・ Let's Play キーワードゲームをする。</li> <li>・ Let's Chant チャンツで音の違いを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JTEと関わる活動の中に英語の表現を繰り返し聞かせる場や、それらを自然と口にできる場を意図的に作り、児童が、外来語とそのもとになる語との音の違いを楽しんだり、表現に慣れ親しんだりすることができるようにする。</li> </ul>
2	<b>ふるさとはどこ？</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語以外の言葉がもとになっている外来語も身の回りにたくさんあることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Chant チャンツで音の違いを楽しむ</li> <li>・ 映像や英語のヒントで、国旗クイズをする。</li> <li>・ Let's Listen どこの国の誰が何を紹介しているかを聞いて、英語以外の言葉がもとになっている外来語もあることを知る。</li> <li>・ Let's Play マッチングゲームを楽しみながら、外来語のふるさとを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Listen では、意図的に映像と別に音を聞かせて、外来語とそのもとになる語との音の違いに気付かせるようにする。</li> <li>・ 活動の中での児童とのやりとりを通して、英語以外の言葉がもとになっている外来語も多くあることに気付かせ、マップに示していくことで、更にそれを実感させる。</li> </ul>
3 本 時	<b>日本発の外来語</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来語のもとになる語の音を聞きながら、友達と一緒にカルタゲームを楽しもうとする。</li> <li>・ 日本語の中にも、外国で外来語として使われているものがあることを知り、世界とのつながりに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像クイズで、前時までにでてきた言葉に再度触れる。</li> <li>・ Let's Chant チャンツで音の違いを楽しむ</li> <li>・ Let's Play 聞き分けカルタゲームをする</li> <li>・ Let's Play 世界で使える日本語予想ビンゴで、外来語として使われている日本語について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動をペアで行わせることで、どの児童も安心して楽しく活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>・ 日本からも外来語を発信していることを知り、それをマップ上でも確認することで、言葉についての関心を高めたり、世界とのつながりを感じさせたりする。</li> </ul>
4	<b>言葉でつながる世界</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の見付けた外来語をクイズ形式で紹介することを通して、友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Activity 材料を受け取って外来語カードを作り、友達とクイズ形式で紹介し合う。</li> <li>・ 友達が紹介してくれた外来語を付け加え、みんなで外来語マップを完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語でヒントを出すことが難しい場合は、ウィンドークイズなどを用いるなど、言語や非言語による方法を使いながら、児童が、自由な関わりを楽しむことができるような場を設定する。</li> </ul>

## 5 本時の活動（3／4）

### (1) 本時のねらい

- ・ 外来語のもとになる語の音を聞きながら、友達と一緒にカルタゲームを楽しもうとする。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ 日本語の中にも、外国で外来語として使われているものがあることを知り、世界とのつながりに気付く。  
【言語や文化に関する気付き】

### (2) 本時の展開

児童の主な活動	J T Eの主な働きかけ 評価 (◎)
1 始まりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの児童が自分の気持ちを伝えられるように、声を掛ける。 How are you ?</li> </ul>
2 映像クイズをする。 cream puff, pizza, television, omelet, cabbage, banana, koala, pineapple, pudding	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が、楽しみながら英語のヒントを聞くことができるように、加工した映像などを提示して、視覚にも訴えながらやりとりを進める。 What's this? It's an animal. …</li> <li>・ 児童の反応を拾いながら、音の違いを確認していく。</li> </ul>
3 “じゃなくてチャンツ”でリズムに合わせて英語を口にし、音を楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2の活動で取り上げた表現を使って行うことで、次の活動に無理なくつなげることができるようにする。</li> </ul>
4 聞き分けカルタゲームをする(ペア対ペア)。 ① 2で扱った語彙のカードを机上に並べる。 ② J T Eが英語の発音で読み上げた時だけカードを取る(外来語読みのときは取らない)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームのルールは、児童にも理解できるような簡単な英語と共に、身振りや実際の動きなども加えながら丁寧に説明していく。</li> <li>・ ペアを組んで活動することで、友達との協力場面を生む。</li> <li>・ 児童が、無理なく楽しみながら音を聞くことができるように、読み上げる速さや明瞭な発音に気を付けるようにする。また、活動後には、よく聞いて活動できたことを十分にほめる。</li> <li>◎ 外来語のもとになる語の音を聞きながら、友達と一緒にカルタゲームを楽しもうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】(行動観察)</li> <li>・ 次の活動につなげるために、ここで取り上げた言葉のふるさとをいくつか確認する。 ~ came from ○○。</li> </ul>
5 “世界で使える日本語予想ビンゴ”をする。(ペア) ① いくつかの日本語について、日本発の外来語として外国でも使われているかを予想し、シートに書き込む。 ② J T Eのヒントを聞いて、答えだと思ふものを指さす。外来語となっているかどうかの予想が正解していたら、そのマスをチェックする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の知っているA L Tの国を関連させ、より意欲をもって予想を楽しむことができるようにする。</li> <li>・ 細かなルールは日本語で説明し、児童全員が楽しめるようにする。</li> <li>・ 児童が聞いて理解できるような英語のヒントを与える。また、ここでのヒントの与え方は、次時の児童の活動にもつながることを意識し、ジェスチャーなどの非言語も十分に使うようにする。 It's a foods. It's soft and white. It's in miso soup.</li> <li>・ 聞くことへの意欲を常にもたせるために、ヒントを1つ聞くごとに指さすものを変えてもよいということにする。</li> <li>・ 正解を出す前に、児童に問い掛け、Yes/Noで反応させるなど、児童がやりとりを楽しみながら、活動を進めていくことができるようにする。</li> <li>・ 答えを発表しながら、そのカードをマップ上に貼っていくことで、生活の中で使っている言葉が、世界のたくさんの人に使われていることを実感させていく。</li> </ul>
6 本時の活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 日本語の中にも、外国で外来語として使われているものがあることを知り、世界とのつながりに気付く。 【言語や文化に関する気付き】(発表観察, 自己評価)</li> <li>・ 友達やJ T Eとの関わりでよかったことをほめ、コミュニケーションへの自信をもたせる。また、活動を通して気付いたことについて振り返りをさせ、次時の活動への意欲をもたせるようにする。</li> </ul>